57 院内コミュニケーションの方法の改善 —Eメールにより情報の共有化を図る—

高橋妙子, 吉田祐子, 小松ミドリ, 山崎きよ子, 坂本すが (NTT 関東通信病院)

〔はじめに〕 院内各部所から看護部門への情報は会議等を通じて口頭や文書で伝達されている。

また随時の情報伝達は電話を多用している。このような状況下で、情報の共有化を図る為に、タイムリーに情報を発信することが望まれた。そこでパソコンを導入し、Eメールによる情報伝達を実施したので報告する。

〔目的〕 Eメール利用による情報伝達の確実性、時間の効率性について検証し、情報を主体的に収集しようとする姿勢を育成する。

〔方法〕 新たに病棟にパソコンを設置する。

〔結果および考察〕

1. 情報伝達の確実性について 従来の文書や会議での口頭による情報伝達をEメールに変えることにより、

誰もが確実に同じ情報を得ることができた。

2. 時間の効率性について 情報の送り手と受け手の同時性を必要としないので時間を拘束せず、特に随時の情報伝達は一斉にEメールで送ることができ、時間の効率性を図ることができた。また、電話による業務の中断がなくなり、波及効果として患者サービスの向上が図られた。

3. 情報に対する意識改革について レスポンスすることにより、情報に対する意識が能動的になった。

4. 今後の活用 臨床看護研究、各委員会等においてシフト勤務者が、会合をもつためのスケジュール調整は容易ではない。これらに対しネットワーク通信を活用しコミュニケーションを図る。

58 コンピュータ管理の実際

森 信洋, 高倉照彦 (亀田総合病院ME室)

〔はじめに〕 近年のマルチメディアはCPUの処理速度や、ネットワーク環境などめまぐるしい進歩を遂げている。今回我々はPCを業務フローに取り入れ、ME室管理の医療機器情報をもとに効率よく機器を運営できたので報告する。

〔方法〕 使用したアプリケーションは、Windows 95のリレーショナルデータベースソフト、Access 97。当院のME室には、データの共有、標準化を図る為、現在6機のPCマシンがクライアントサーバシステムで稼動している。ME業務管理システム（以下システム）は4つのセクションに分け、医療機器を記録した管理台帳、機器の貸し出し返却を管理する貸出情報、点検、修理を記録する保守台帳、内視鏡や、レーザーを記録する手術室情報、これらを1つのシステムで管理した。

〔結果〕 管理台帳には1,200台の機器が管理運営され、購入から廃棄までのライフサイクルの記録を行った。

また、貸出情報はPC化することにより、機器個々の稼働率はもとより病棟間での貸出機器の確認、患者入退院の動きなども反映することができた。さらに手術室情報では年々増加する内視鏡業務をもとに患者推移の情報や保守点検時期の把握ができた。

〔考察〕 システム導入によりスタッフのPC管理の認識向上や、日々の機器稼働率が即日に分かり業務遂行上重要な役割を果たしてきている。

〔結語〕 PCを導入した結果、データ蓄積の標準化を図ることで、安全面、効率面での情報分析が可能になった。また、院内へのME業務認識向上になるなど効率の良い機器の運営ができた。